

農林水産商工常任委員会資料

(令和7年8月21日)

項 目	ページ
■ 米国関税対策協議会の開催について 【農林水産政策課】	2
■ 渇水及び大雨に係る農業関係の対応状況等について 【農林水産政策課、農地・水保全課】	3
■ 鳥取県農業生産1千億円達成プランの推進に係る若手・女性農業者会議開催 結果について 【農林水産政策課】	4
■ 鳥取県農作業死亡事故警報の発令と緊急啓発活動の実施について 【経営支援課】	5
■ 主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	6
■ 米の価格動向について 【生産振興課、食パラダイス推進課】	8
■ 令和7年度獣医師を目指す中高生セミナーの開催結果について 【家畜防疫課】	9
■ ソフトバンク(株)による全道府県と連携した新たな森林保全の取組に関する 発表イベントの概要について 【森林づくり推進課】	10
■ 食パラダイス鳥取県！「もっと地産地消×フェアプライスプロジェクト」月間 の開始について 【食パラダイス推進課】	11
■ 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課、水産振興課、漁業調整課】	13

農 林 水 産 部

米国関税対策協議会の開催について

令和7年8月21日

政策統轄課・商工政策課・農林水産政策課

米国の相互関税が8月7日に発動されることを踏まえ、県内産業界等と現状及び今後の対応等について話し合う米国関税対策協議会を開催しました。

1 日時

令和7年8月4日（月）

午後2時30分から午後3時30分まで

2 場所

特別会議室

3 出席者

国：中国経済産業局

県内団体：鳥取県商工会議所連合会、鳥取県商工会連合会、鳥取県中小企業団体中央会、(株)山陰合同銀行、(株)鳥取銀行、鳥取県信用金庫協会、日本貿易振興機構鳥取貿易情報センター、鳥取県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会鳥取県本部

県：知事、政策統轄監、政策統轄総局長、令和の改新戦略本部長、商工労働部長、農林水産部長



4 出席者からの主な発言

- ・相談窓口への相談はほとんどないが、経営支援専門員がヒアリングを行って、受注減のある企業の影響を確認している。県の支援制度等を活用しながら相談に対応していく。（商工団体）
- ・メーカーの減産計画で自動車関連の受注が半減見通しとの声もあり、影響がじわじわと出ている。また、値下げ要請が今後発生していかないか懸念する声もあった。（商工団体）
- ・心理的要因による消費マインドの減退を警戒する声がある。（商工団体）
- ・直接的に資金繰り悪化を懸念する声ではないが、将来の収益悪化を懸念するとの声は寄せられている。柔軟な制度融資・補助金制度となるよう検討をお願いしたい。（金融機関）
- ・米国向けトラック部品の受注減で、月の売上が2割から4割程度の減少が見込まれ、発注元へ加工賃の値上げを要請している企業がある。（金融機関）
- ・コメの輸入はミニマム・アクセス米の範囲内となっているが、アメリカからの輸入米は中粒種であり、食用米にもなる可能性を危惧している。収入保険制度が、実効性のあるセーフティネットとなるよう国に要望して欲しい。（農業団体）

5 県の対応

（1）速やかな国要望の実施（8月7日、8日に実施済み）

国に対して、米国関税措置による地域経済への影響緩和、国内農業への影響緩和及び持続的な水田農業に資する政策の実施を要望した。（今回出席者から発言のあった、中小企業成長加速化補助金の柔軟な運用、農業の収入保険制度の拡充についても併せて要望した。）

（2）支援策の検討

国の対策とも呼応し、きめ細かい対策を検討する。

- ・資金繰り支援：資金調達の円滑化に向けた、関税対策の県制度融資の柔軟化や対象分野拡充等を検討する。
- ・新市場開拓・サプライチェーン再構築支援：海外需要の獲得に向けて、補助金の拡充、伴走支援や海外プロモーションの強化を検討する。
- ・設備投資支援：県内投資の活発化に向けて、大型投資や関税対策に係る補助金の要件緩和等を検討する。
- ・農業への影響緩和対策：農業への影響緩和のため、引き続き情報収集に努め、必要な影響緩和対策を検討する。

渇水及び大雨に係る農業関係の対応状況等について

令和7年8月21日
農林水産政策課、農地・水保全課

7月からの渇水及び8月7日からの大雨への対応状況等について、以下のとおり報告します。

1 7月からの渇水への対応状況

(1) 8月7日の降雨までの実施状況

取組等	実施数	市町村	主な状況
番水	7 地域	鳥取市、岩美町、八頭町、北栄町、琴浦町、江府町	流域を3グループに分け2日置きに番水（大口堰改良区）
節水	7 地域	倉吉市、琴浦町、米子市、日吉津村、伯耆町	夜間節水を実施（天神野改良区） ゲートの開度調整による節水を実施（日野川流域の改良区）
ポンプ	25 地域	鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、倉吉市、湯梨浜町、琴浦町、米子市、大山町、南部町、日野町、日南町	深井戸ポンプを利用して用水を確保（湯梨浜町） ポンプによる直接取水（日野町）
その他	6 地域	鳥取市、岩美町、琴浦町	河川内取水口までの土砂撤去を支援（鳥取市） 船上山ダムの放流量を増加（琴浦町）



田面のひび割れ



現地でのポンプ設置等の対策（左：日野町、右：八頭町）



(2) 現在の実施状況（8月19日時点）

農業用水をポンプ給水した箇所は、運転の休止等により通常取水に戻っている（2箇所を除く）。

取組等	実施数	市町村	主な状況
ポンプ	2 地域	鳥取市及び日野町の一部地域	ポンプによる直接取水

(3) 県の対応状況等

① 応急対応への支援

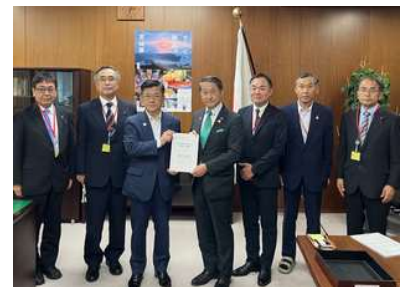
生産者の実施するポンプ運転や土のう設置等応急対応への負担軽減や市町村の給水対策等を支援するため、7月31日に予備費を活用し「渇水対策等緊急事業」を創設した。

② 国への要望活動（8月8日）

持続的な水田農業に資する新たな水田政策の実施について要望を行った。

【主要要望内容】

- ・今夏の著しい渇水・高温などの自然災害に強い地域農業への支援強化や、令和9年度以降の水田政策の見直しに当たっては、地域の実情に配慮し、生産者が将来にわたって安心して営農に取り組むことができる制度とすること。



2 8月7日からの大雨への対応状況

(1) 被害の状況

施設等	箇所等	市町村	主な被害状況
田	3 箇所	鳥取市、伯耆町、日南町	田の法面崩壊
水路	2 箇所		田の法面崩壊に伴う水路の閉塞

(2) 大雨による災害の激甚災害指定について

- ・令和7年8月6日からの大雨による全国的な災害が国により激甚災害として本激指定される見込み。（本県では鳥取市と日南町が対象予定）

(3) 県の対応状況等

- ・鳥取市及び日南町の水路閉塞については応急処置が完了。
- ・伯耆町の水田法面崩壊については町と応急支援について検討中。
- ・今後、鳥取市及び日南町は国の災害復旧事業、伯耆町は単県「しっかり守る農林基盤交付金」を活用し、市町と連携しながら早急に復旧支援を行う予定。



鳥取市気高町の閉塞した排水路の応急復旧状況（8月12日時点）



伯耆町の水田の法面崩壊の状況（8月15日時点）

鳥取県農業生産 1 千億円達成プランの推進に係る若手・女性農業者会議開催結果について

令和 7 年 8 月 2 1 日

農 林 水 産 政 策 課

県下の若手や女性の農業者をメンバーとして、農業生産 1 千億円実現に向けた実行方策を検討することを目的に、「鳥取県農業生産 1 千億円達成プランの推進に係る若手・女性農業者会議」を開催しましたので、その概要を報告します。

1 日 時 令和 7 年 7 月 30 日（水）午後 2 時から 3 時 50 分

2 場 所 エースバック未来中心 セミナールーム 2

3 出席者 若手・女性農業者 11 名（うち女性 3 名）
平井知事

4 内 容

出席者が 3 グループに分かれ、「農業者の確保のため、選ばれる農業とは」をテーマにグループ討議を行い、知事報告を行った。

グループ	主な意見
水稻・耕畜連携グループ	①まず我々経営者が経営マインドをしっかりとって営農していくということが重要である。 ②選ばれる農業となるには、スマート農機で営農しているかっこいい姿を見せることも重要であり、実現のために基盤整備が必要である。誰もが基盤整備事業に取り組めるよう補助要件を緩和してほしい。 ③中山間地域では、今後の農地の流動化への対応や鳥獣害対策が重要となってくる。
果樹・野菜グループ	①多様な人材を確保するために、若い方が見て農業したいなと思うような情報を効率的に提供する就農サイトを作してほしい（情報発信の一元化）。 ②物価高騰の中で、研修時や新規就農時は資金面で苦労することが多いと思われるので、住宅等生活面のサポートも充実させてほしい。 ③独立就農を希望する人をまずは雇用して研修をする際の支援（環境整備等）をお願いしたい。
女性グループ	①女性が農業をする場合、色々な補助を受けて恵まれた環境ができてきたと感じている。 ②農業は家族経営が中心なので、女性は農作業だけでなく家事労働も求められるため負担が大きく、新たに農業の世界に飛び込む際のハードルである。 ③農業をしている女性がお互いに情報交換する機会が少ないので、そういう場が広がると、女性は元気が出てくると考える。

5 今後の予定

いただいた御意見の内容について、現行の補助事業や取組内容を精査した上、今後の政策立案に結びていくとともに、引き続き若手や女性農業者との意見交換の機会を確保していく。



<グループ討議>



<集合写真>

鳥取県農作業死亡事故警報の発令と緊急啓発活動の実施について

令和7年8月21日
経営支援課

8月14日に八頭町において農作業死亡事故が発生しました。鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会は「鳥取県農作業死亡事故警報」を発令し、緊急かつ重点的な啓発活動を全県的に実施しています。

1 事故の概要

- (1) 発生日：8月14日（木）
- (2) 発生場所：八頭町別府 町道そばの用水路（発見場所）
- (3) 事故者：八頭町 男性 60代
- (4) 事故概要：午後0時45分頃、事故発生場所付近で事故者の家族から警察に「用水路に人が倒れている」と通報があり、警察が確認したところ事故者が乗用の草刈り機とともに町道から転落した状態で見つかり死亡が確認されました。

2 警報の発令

- (1) 発令日：8月20日（水）
- (2) 警報期間：発令日から9月2日（火）まで 14日間
- (3) 発令機関：鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

3 実施する啓発活動

- (1) メディアを活用した広報
テレビ：日本海テレビ、山陰中央テレビ、ケーブルテレビのコマーシャル
ラジオ：FM山陰、山陰放送のコマーシャル
新聞：日本海新聞
その他：LINE、YouTubeの広告
- (2) 啓発チラシの作成と農業者への配布・伝達
- (3) 行政無線、ホームページ等での周知
- (4) JA営農指導員、農業委員、農業改良普及員、農機販売店等による農業者への注意喚起（のぼりの掲出とマグネットシートの公用車等への掲示）

【参考】

1 鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会の概要

- (1) 構成：県、JAグループ、農業共済組合、市町村、農機販売店等
会長 谷垣重彦（JA鳥取中央会専務理事）
- (2) 主な活動：農作業安全に関する啓発活動
※令和4年1月13日に鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会の臨時総会を開催し「農作業死亡事故警報及び多発警報」を創設。

2 過去の農作業事故の発生状況（令和7年度は8月15日現在）

区分	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
事故数	6	12	6	10	4	15	11	3	15	6
うち死亡者数	2	1	1	6	1	7	3	2	1	1

※各市町村の農作業安全推進員からの報告をまとめたもの

3 県の支援施策 農作業安全対策事業 9,152 千円

- (1) 鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会事業
 - ・農作業死亡事故警報等緊急啓発活動
 - ・春・秋の農作業安全運動等の啓発活動
 - ・担い手に対する農作業安全講習会
 - ・対話型安全研修会
- (2) 県事業
 - ・農作業安全推進リーダー研修会

主要農産物の生産販売状況について

令和7年8月21日
生産振興課

本県の主要農産物の生産販売状況（8月7日現在、J A全農ととり取扱分）について報告します。

1 主要品目の生産販売状況

(1) 生産状況

- ・らっきょうは高温等で当初生育が遅れたが、生育期間中に適時降雨もあったことから10a当たり収量は前年よりも多くなったものの、栽培面積が減少していることから生産量は前年を下回った。
- ・すいかは肥大良好で大玉傾向であり、8月7日時点で前年対比100%の出荷量となっている。
- ・ブロッコリーの初夏どり作型では秋冬作の収穫遅れ等により、作付面積は減少したが、越年作型を含む最終出荷数量は前年を上回った。
- ・春ねぎは11月の大雨による湿害や春の高温による抽苔（花茎の発生）等により出荷量が減少した。夏ねぎはおおむね順調に生育していたが、高温・乾燥により現在、生育は停滞ぎみである。

(2) 販売状況

- ・らっきょうは市場販売の最終出荷量は前年比85%と減少したが、単価は安定して推移したため、販売金額は前年比91%の低下にとどまった。
- ・すいかは観測史上最速の梅雨明け、その後の高温等により引き合いが強く、過去最高単価を更新しており（260円/kg）、36億円を超える販売額となっている（令和6年産最終販売額は35億1千万円）。
- ・初夏どりブロッコリーは他産地（四国、長野）との競合により平均単価は低く、販売額は前年を下回った。
- ・白ねぎの単価は前年を上回っているが、出荷量が減少したため、販売額は前年を下回っている。夏ねぎでは、梅雨明けが早かったことにより土寄せができず、軟白長が短いほ場があるため、J A西部では盆明け以降の出荷分から一部規格の緩和が予定されている。

【らっきょう】

区 分	面積 (ha)	生産者戸数 (戸)	5月22日～6月19日までの販売実績(最終、累計、全農)		
			数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
R7年度	149	181	1,287	685	882
R6年度	163	199	1,516	643	974
前年比	91%	91%	85%	107%	91%

【すいか】

区 分	面積 (ha)	生産者戸数 (戸)	5月29日～8月7日までの販売実績(累計、全農)		
			数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
R7年度	266	359	14,041	260	3,651
R6年度	268	357	14,033	251	3,516
前年比	99%	101%	100%	104%	104%

【初夏どりブロッコリー】

区 分	面積 (ha)	生産者戸数※ (戸)	4月1日～7月17日までの販売実績(最終、累計)※※		
			数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
R7年度	166	498	1,760	343	602,775
R6年度	180	515	1,754	380	667,180
前年比	92%	97%	100%	90%	90%

※全作型を含む。 ※※一部、越年作型を含む。

【白ねぎ】

区 分	面積 (ha)	生産者 戸数 (戸)	4月1日～8月7日までの販売実績(累計、全農、全作型)		
			数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
R7年度	317	801	1,242	400	497
R6年度	314	841	1,490	383	571
前年比	101%	95%	83%	104%	87%

(次頁あり)

2 その他主要品目の生育状況

(1) 水稻

① 作付状況

- 令和7年産の主食用米作付面積は、11,974ha で前年対比約 400ha の増となっている。
県内主要品種の作付面積の推移（備蓄米含む）

(単位:ha)

	R2	R3	R4	R5	R6	※R7 見込	前年比	品種比率
ひとめぼれ	2,647	2,502	2,247	2,109	1,986	1,982	△ 4	17%
コシヒカリ	4,647	4,473	4,475	4,327	4,094	4,124	30	34%
きぬむすめ	3,620	3,415	3,172	3,042	3,113	3,371	258	28%
星空舞	1,036	1,257	1,309	1,411	1,486	1,539	53	13%
その他	891	867	832	870	901	958	57	8%
主食用米計	12,840	12,514	12,036	11,759	11,580	11,974	394	—

注1)鳥取県農業再生協議会調べ

注2)令和7年度は4月末時点の集計値

② カメムシ類（イネカメムシ・斑点米カメムシ類）の発生及び対応状況

- イネカメムシ及び斑点米カメムシ類の発生が多く、活動に好適な気象が続くと見込まれたことから、7月11日、22日にそれぞれ病害虫発生予察情報を発表し、防除の徹底を呼び掛けている。
- 病害虫発生予察注意報と併せ、7月17日に「イネカメムシ・果樹カメムシ類発生緊急対策会議」を開催し、防除の徹底等を呼びかけた。さらに、県内主要品種の出穂ピークに合わせ、7月28日から全県の水稲農家に向けて注意喚起を実施している。（JAによる広報に加え、ポスター配布、ケーブルテレビCMを実施）
- 一昨年、発生が顕著であった県西部地区では、昨年度から、県、JA、防除事業者等による「イネカメムシ対策会議」を開催し、情報共有や対策の検討、防除体制等の確認を行っている。
- 出穂期を迎えているほ場では、すでに薬剤防除で対応している。

予察灯におけるイネカメムシの誘殺数

調査時期		鳥取市			岩美町			琴浦町			日吉津村		
		R7	R6	R5	R7	R6	R5	R7	R6	R5	R7	R6	R5
7月	上旬	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	中旬	3	1	0	6	0	0	0	0	0	7	0	0
	下旬	5	0	0	9	0	1	0	1	0	1	4	0
8月	上旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0

水田における斑点米カメムシ類の発生状況(8月5日～8日に実施したすくい取り調査結果)

	ほ場数	アカスジカシカメ	ホソハラカメムシ	トゲシラホシカメムシ	クモヘリカメムシ	イネカメムシ
東部	33	7.2 (66.7%)	0.4 (15.2%)	0.2 (15.2%)	0.3 (27.3%)	0.1 (9.1%)
中部	18	4.4 (66.7%)	0.1 (22.2%)	0.0 (0%)	0.1 (16.7%)	0.1 (16.7%)
西部	33	3.9 (39.4%)	0.4 (6.1%)	0.9 (21.1%)	0.4 (18.2%)	1.6 (18.2%)

※捕虫網 25 往復 50 回振りすくい取り調査による1ほ場当たりの平均虫数、()内は発生ほ場率。

⇒全体にアカスジカシカメの発生が多い傾向で、一部でイネカメムシの発生が多いほ場も認められたが発生ほ場率は高くない。

(2) 梨

ハウス二十世紀は8月2日（前年2日）から販売が開始され、前年を上回る高単価で推移。梅雨明け以降の高温・干ばつの影響で肥大が鈍り、8月8日時点では、2L中心のL寄りと小玉傾向である。

米の価格動向について

令和7年8月21日
生産振興課
食パラダイス推進課

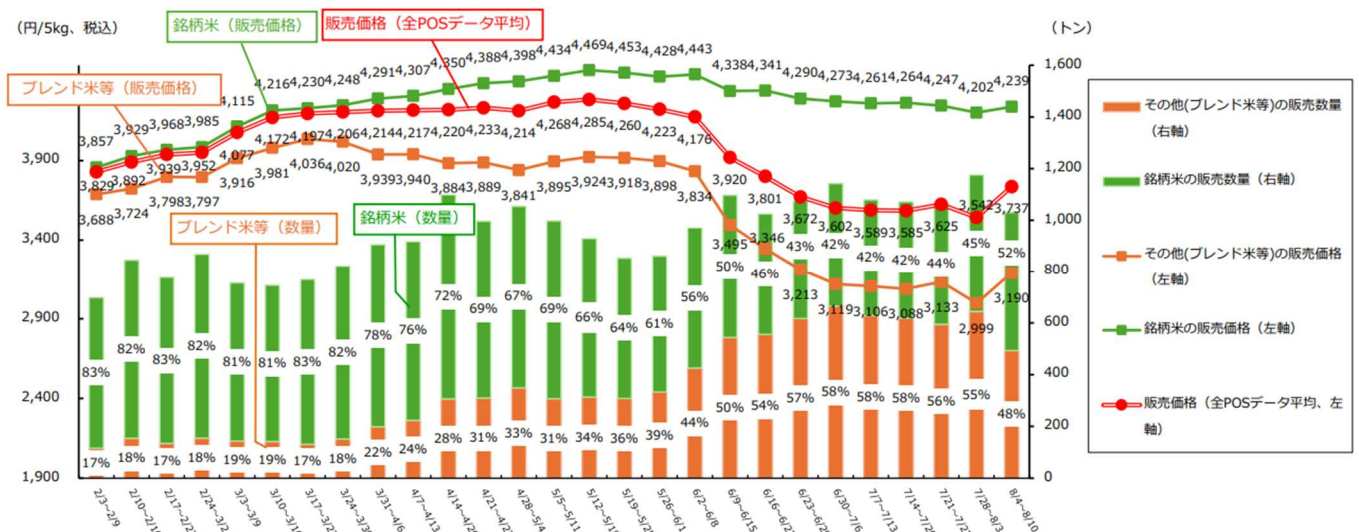
全国及び県内の米の価格動向について報告します。

1 全国の米の販売価格動向

○8月18日に公表された全国的な米の小売価格（KSP-SP 提供 POS データ）は、8月4日の週の平均価格は3,737円/5kg（税込）（対前週+195円）で2週ぶりに上昇。銘柄米は4,239円/5kg（税込）で37円値上がりした。

- ・ブレンド米等の平均販売価格は前週比+191円の3,190円/5kg（税込）。
- ・銘柄米の平均販売価格は前週比+37円の4,239円/5kg（税込）。
- ・ブレンド米等が占める割合は48%に低下。

※8月19日に農林水産省は来月以降も小売業者による随意契約の備蓄米の販売を認める方針。



2 県内小売店への調査（聞き取り）概要

（1）県内の状況（R7.8.18 県内小売店10店舗への調査結果 ※ただし、担当者不在により1店舗未回答）

※事業者数ではなく店舗数で記載

- 県内の小売店において品薄感はなく、購入制限まではかけていないという店舗が大多数。
- 前回（7月21日）までの調査において、入札備蓄米（表示：ブレンド米又は複数原料米）の入荷は9店舗、随意契約による備蓄米の入荷は8店舗に上っていたが、8月18日時点において継続入荷しているのは、それぞれ2～3店舗と減少。なお、随意契約による備蓄米については8月末が販売期限とされ、今後の入荷はないとの回答を得た。
- お盆頃から一部の店舗で早場米である県外産こしひかりの入荷が開始となった。
- 今後の販売価格の動向については、前回までの調査同様、「当面下がる見込みはない」、「現時点では不明」との回答に変化は見られない。
- 定点品目である県産コシヒカリ5kgの入荷があるのは9店舗、残り1店舗では取扱いなし。価格は税込4,946円～5,500円（最高値が+13円となっているが、仕入価格高騰等による値上がりではなく、該当店舗が特価販売を終了し、通常価格に戻したことによるもの）。

（2）調査対象店舗

県内のスーパーマーケット、ドラッグストア等（10店舗）

〔東 部〕	2 店舗
〔中 部〕	1 店舗
〔西 部〕	2 店舗
〔広域展開〕	5 店舗

（3）調査方法及び項目

購入制限、在庫状況、入荷状況、価格動向（見込み）、店頭価格 等

令和7年度獣医師を目指す中高生セミナーの開催結果について

令和7年8月21日
家畜防疫課

将来の県内の公務員獣医師や産業動物獣医師確保のため、学生及びその保護者を対象として獣医師の職場や獣医系大学のカリキュラム、県の修学資金制度等について説明するセミナーを開催しました。

本セミナーは（公社）鳥取県獣医師会との共催で平成28年度から実施し、令和6年度までに延べ78人の中高生が参加しました。令和6年度から中学生・予備校生まで対象を拡充し、今年度の参加者数は過去最多の42名となりました。

- 1 日時・場所 東部会場：8月5日（火）午後2時半から4時半まで（とりぎん文化会館）
西部会場：8月6日（水）午後2時半から4時半まで（鳥取県西部総合事務所）
- 2 主催等 主催 （公社）鳥取県獣医師会
共催 鳥取県
- 3 内容 （1）様々な分野で活躍する獣医師について
（2）家畜や人の健康・動物愛護に係わる獣医師による職場紹介
①県職員（農林水産部・生活環境部）の職場紹介
②農業共済組合家畜診療所の職場紹介
（3）獣医系大学を目指す中高生へのアドバイス
獣医系大学の紹介、獣医師になるまでのステップ、
鳥取県獣医師修学資金制度 など
- 4 参加者 県内外の中高生・保護者42名（中学生12名、高校生10名、既卒2名、保護者18名）

	中学生	高校生	既卒	合計	保護者
東部会場	6名(5校)	7名(4校)	2名	15名(9校)	10名
西部会場	6名(4校)	3名(3校)	—	9名(7校)	8名
合計	12名(9校)	10名(7校)	2名	24名(16校)	18名

<参加者の声>

参考になった 95.8% わからない 4.2%

- ・獣医師の仕事がこんなにも多岐に渡るものだとは知らなかった。素敵な仕事だと思った。
- ・これからの進路の選択肢の幅が広がった。また機会があれば是非参加したい。
- ・注射の仕方など色々な事を具体的に伝えてもらえて獣医師の仕事のイメージが明確になった。



東部会場の様子

5 獣医師確保に係るその他の取組み

・インターンシップ

平成27年度より獣医系学生のインターンシップを継続して実施している。令和6年度までに105名が参加し、うち12名が鳥取県内に就職した。県の獣医師業務を体験するほか、県職員（獣医職）と学生とが直接コミュニケーションできる貴重な機会となっている。

年度	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (予定)
参加人数	5	5	13	15	8	12	9	17	10	11	7

ソフトバンク(株)による全道府県と連携した 新たな森林保全の取組に関する発表イベントの概要について

令和7年8月21日

森林づくり推進課

ソフトバンク(株)は、脱炭素社会の実現に向け、昨年度から全国の自治体に企業版ふるさと納税による植林等の森林保全活動を提案していたところ、この度全道府県（東京都は寄附対象外。都内で森林面積が最も広い八王子市へ寄附。）との連携体制が整ったとして記者発表イベントが開催されました。

本県は、令和7年3月にソフトバンク(株)から1.6億円の企業版ふるさと納税を受け入れており、植林を主体とした森林整備に活用する予定です。

1 開催日：令和7年7月30日（水）

2 場 所：グランドプリンスホテル新高輪
国際館パミール（東京都港区高輪3丁目13-1）

3 主 催：ソフトバンク(株)



（左から3番目が鳥取県中原副知事）

4 出席者

- （1）主 催 者：ソフトバンク(株)代表取締役社長執行役員兼CEO、LINE ヤフー(株)代表取締役社長CEO、PayPay(株)代表取締役社長執行役員CEO、他ソフトバンク・グループ会社幹部など
- （2）環 境 省：環境大臣、地球環境審議官
- （3）各道府県：各道府県知事・副知事（代理出席者）など

5 挨拶概要

（1）ソフトバンク(株)代表取締役社長執行役員兼CEO（宮川潤一氏）

- 全国の森林を再生させるために、企業版ふるさと納税を活用して、日々森林関係の問題と向き合う自治体と、それを支えている企業を応援するプログラムを用意した。
- 今回の取り組みで全国に200万本超の植樹を支援することになる。

（2）環境大臣（浅尾慶一郎氏）

- 今回の取組は、多くの自治体とのコミュニケーションにより環境・社会・経済の課題を同時に解決するもので、国が掲げる地域循環共生圏の実現を後押しするものと期待している。
- ネイチャーポジティブの実現に向けては、環境を企業経営戦略の本丸に据え、統合的に推進する企業の取り組みこそが原動力となる。

（4）各道府県知事・副知事（鳥取県：中原副知事）

- シカ対策や労働力の確保など様々な課題があるが、継続的な林業の経営を考えると、間伐中心の林業から皆伐再造林へとシフトしていかなければならない。
- 今回の寄附を有効活用して積極的に皆伐再造林を推し進め、県産材の活用やCO2吸収源の確保に努めて、持続可能な社会づくりに貢献していきたい。

【参考】ソフトバンク(株)から本県への寄附内容

- （1）企業版ふるさと納税寄附額：1.6億円（森林整備促進基金に令和7年3月積立）
- （2）活用趣旨：①植栽及びその後の保全・管理
②植栽地のCO2吸収量を5年毎に算定

食パラダイス鳥取県！「もっと地産地消×フェアプライスプロジェクト」月間の開始について

令和7年8月21日
食パラダイス推進課

本県では9月1日から11月30日を「地産地消月間」とし、県産食材の地産地消の推進を行っています。
昨年度から、農林水産省が取り組んでいる「フェアプライスプロジェクト」を同時展開しており、今年度も県産食材への愛着と適正価格への県民理解を深める取組を行います。

1 食パラダイス鳥取県！「もっと地産地消×フェアプライスプロジェクト」月間

県内事業者等と連携して「地産地消」と「フェアプライスプロジェクト」の取組を広く県民に周知し、県産農林水産物への愛着と生産現場への理解を高めることで、適正価格による県産農林水産物の積極的な購入促進を行う食パラダイス鳥取県！「もっと地産地消×フェアプライスプロジェクト」月間を実施する。

(1) 実施内容

- ア 食パラダイス鳥取県！「もっと地産地消×フェアプライスプロジェクト」月間の新聞折込広告、テレビ・ラジオCM放送、Web動画配信、YouTube・TVer動画配信
- イ 新たな取組として、JA広報誌への折込広告、鳥取駅前広告塔への掲示、動画視聴者へのプレゼントキャンペーンを実施し、更なる認知を図る。
- ウ 県内事業者（小売店、飲食店等）の店舗内に共通ロゴがデザインされたポスター、POP、ミニのぼり等を掲示することによる機運醸成
- エ 取組周知を行う小売事業者、JAへの支援
- オ 県内事業者（小売店、飲食店等）の独自イベントの情報発信

(2) 実施期間：9月1日（月）から11月30日（日）まで

(3) 情報発信：テレビ・ラジオCM 合計116本

【内訳】 テレビCM放送（3局）計90本

ラジオCM放送（1局）計26本

新聞折込広告：138,000部程度

JA広報誌への折込広告：44,250部程度

鳥取駅前広告塔への掲示（9月から11月まで）



(4) 県内事業者の独自イベント

- ・独自イベントを実施する県内事業者を7月24日から10月31日までの間、募集
（例：県産品を購入した方への自社ポイント付与、県産品を購入した方へ抽選でプレゼント進呈等）

2 食パラダイス鳥取県！「もっと地産地消×フェアプライスプロジェクト」月間中の各種取組

(1) とっとりスイーツフェスタ

県産フルーツの魅力を発信し、県内への誘客促進を図るため、梨やぶどう等を使ったスイーツ取扱店舗を一堂に集めたイベントを県内3か所で開催する。（昨年度集客数：約4,800人）

【実施日／場所】

【東部】10月4日（土）、5日（日）／丸由百貨店5Fトットリプレイス

【中部】11月3日（月・祝）／エースバック未来中心アトリウム

【西部】9月6日（土）、7日（日）／米子しんまち天満屋4F催事場



(2) 令和7年度「食パラダイス鳥取県」特産品コンクール

鳥取県産の農林水産物を主原料とした加工食品又は鳥取県産の農林水産物の特徴を活かした加工食品の中から、優れた新商品を表彰・PRすることにより、新商品の販路拡大と開発を促し、食パラダイス鳥取県にふさわしい加工食品の充実を図る。

応募期限：9月10日（水）、書類審査：9月、試食審査等：10月23日（木）



(3) 四季の県魚を使ったお魚クッキング体験イベント

鳥取県産魚（四季の県魚）について、子どもが興味を持ち、家庭で魚を食べるきっかけを増やし、県産魚（四季の県魚）の消費増加につなげるため、親子で楽しむお魚料理教室を次のとおり行う。

【夏の県魚】※実施済

マアジの簡単調理体験（マアジのボロネーゼパスタ）、イワガキの開け方体験

【実施日】 7月26日（土）

【場所】 丸由百貨店5階トットリプレイスプレイヤーズキッチン

【参加者】 19組（38名程度）

【参加者の感想】「子どもが小さくても楽しく簡単に魚料理を作ることができ、お家でもアジを食べようということになった。」「殻付きのイワガキを購入するのは気が引けていたが、子どもにもできそう。」等の声があった。

〔秋の県魚〕

ハタハタの親子クッキング体験、ベニズワイガニの捌き体験

【実施日】 10月18日（土）

【場所】 境港おさかなパーク調理室



（４）県産農水産物を使用した料理の特集記事掲載

9月27日（土）、28日（日）に県立美術館前大御堂廃寺跡芝生広場において実施予定の「やきとり JAPAN フェスティバル 2025 in 倉吉」に先立ち、県内の鶏グルメを取り扱う飲食店等について、フリーマガジンの特集記事への掲載を行うとともに、リーフレット（掲載内容の別刷り）を作成し、宿泊施設や空港など観光情報県内発信拠点へ配架するなど、鶏食文化醸成に向けた情報発信を行う。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

令和7年8月21日
農地・水保全課
水産振興課
漁業調整課

【新規分】

主 務 課	工 事 名	工事場所	契 約 の 相 手 方	契 約 金 額	工 期	契約年月日	入 札 方 法
農地・水保全課 (西部総合事務所農林局)	淀江地区ほ場整備(用排水路)工事	米子市 淀江町 淀江	株式会社所子建設 代表取締役 中川 郁夫	157,300,000円 (予定価格) 167,455,200円	令和7年8月12日 ～ 令和8年3月23日	令和7年8月8日	制限付 一般競争入札 (2社)
漁業調整課 (水産試験場)	「第一鳥取丸」定期検査整備工事	新潟県新潟市中央区入船町	新潟造船株式会社 代表取締役社長 一柳 雅人	100,100,000円 (予定価格) 103,321,900円	令和7年8月8日 ～ 令和8年1月26日	令和7年8月8日	指名競争入札(4社)

【変更分】

主 務 課	工 事 名	工事場所	契 約 の 相 手 方	契 約 金 額	工 期	契約年月日	変 更 理 由
農地・水保全課 (西部総合事務所農林局)	富江地区ほ場整備(1工区)工事	西伯郡 伯耆町 富江	株式会社 ティー・エム・エス 代表取締役 水町 直允	(当初契約額) 101,200,000円	令和6年8月13日 ～ 令和7年3月24日	(当初契約年月日) 令和6年8月9日	
				(第1回変更後契約額) 140,388,600円 (変更額) 39,188,600円	令和6年8月13日 ～ 令和7年8月8日	(第1回変更契約年月日) 令和7年3月24日	・早期のネギ作付けを要望される農家が多く、次年度工事で予定していた表土戻しについて、前倒し施工する必要が生じたことによる工事費の増額。 ・工事用進入路が営農作業車両と重複するため、調整を行ったことによる工期の延伸。
				(第2回変更後契約額) 141,564,500円 (変更額) 1,175,900円	令和6年8月13日 ～ 令和7年9月30日	(第2回変更契約年月日) 令和7年8月8日	・基盤造成中に発生した既設構造物の処分量の精査に伴う工事費の増額。 ・渇水対策として農作物への散水作業を行うため、営農者から工事区域内道路の走行を求められ、工程調整を行ったことに伴う工期の延伸。
水産振興課 (栽培漁業センター)	栽培漁業センターサザエ生産棟改修工事(建築)	東伯郡 湯梨浜町 石脇1166	株式会社井中組 代表取締役 井中 紳二	(当初契約額) 97,889,000円	令和6年6月4日 ～ 令和7年6月30日	(当初契約年月日) 令和6年6月4日	
				(第1回変更契約額) 113,960,000円 (変更額) 16,071,000円		(第1回変更契約年月日) 令和7年6月18日	・外部工事(塩害による外部劣化があり追加補修) ・鉄骨工事(既設鉄骨の腐食が酷く再利用不可のため新設) ・その他経年劣化による建具工事、内装工事等